

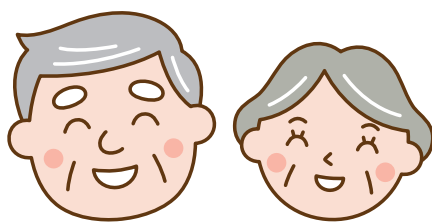
金融機関編

認知症にやさしい まちづくりガイド

～金融機関職員のための見守りマニュアル～



福岡市



認知症とともに生きる人はこれから増えていきます

厚生労働省研究班の報告(2024年)によると、2040年時点の認知症患者数は約584万人にのぼると推計されており、65歳以上の約7人に1人が認知症になると予測されています。

福岡市認知症フレンドリーシティ・プロジェクト



福岡市は、人生100年時代の到来を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく活躍できる社会を目指す「福岡100」の取組みのひとつとして、認知症フレンドリーシティを宣言し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちの実現に向け、様々な取組みを進めています。

主な取組みとして、認知症コミュニケーション・ケア技法ユマニチュード®の地域や企業、児童生徒等への講座や、認知症の人にもやさしいデザインの導入促進などがあります。

詳しくは、福岡市のホームページから「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」をご覧ください。



認知症
フレンドリーシティ・
プロジェクト
(福岡市ホームページ)

パンフレット作成の趣旨について

このパンフレットは、高齢者の日常生活に関わる機会が多い生活関連企業の一つである金融機関の皆様に向けて作成しました。

金融機関の皆様へ、認知症への正しい理解と適切な対応について理解を深めていただき、可能な範囲で地域における見守りの一翼を担っていただければ、認知症の人が穏やかに生活を継続するための大きな支えとなります。

このパンフレットを金融機関での対応のヒントとして活用していただければ幸いです。

I. 認知症を正しく理解する

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が壊れてしまったり、働きが悪くなって脳の司令塔に不都合が生じたりすることで、記憶力や判断力などにさまざまな障害が起きている状態です。

認知症の症状

認知症の症状は、大きく二つに分けることができます。

中核症状

脳の機能が低下することで直接的に現れる症状です。

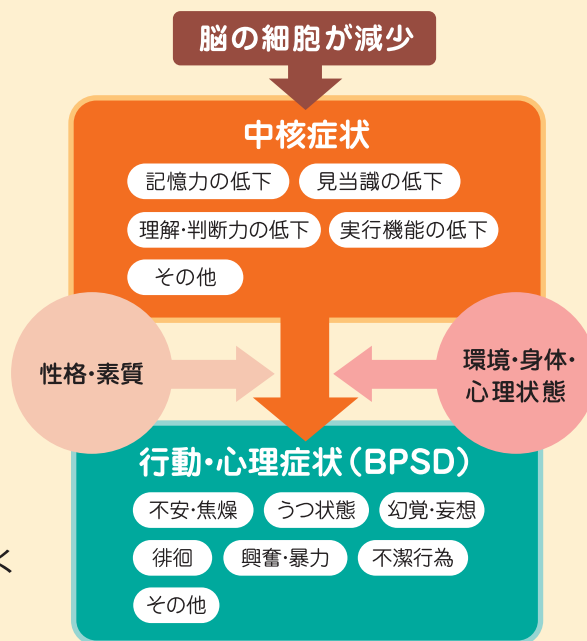
- さっき聞いたことを忘れる（記憶力の低下）
- 今がいつで、ここがどこかわからなくなる（見当識の低下）
- 理解力・判断力の低下など

行動・心理症状（BPSD）

中核症状に、本人の性格や生活環境、その時の心の状態などが影響して引き起こされる症状です。

- 不安や気分の落ち込み ● とまどいやいらだち ● 怒りなど
- ただし、これらの症状は、周囲の人の対応によって、落ち着くことがあります。

症状の応じた対応の仕方は、5ページをご参照ください。



参考: 出典『認知症サポーター養成講座標準教材』

認知症の種類

認知症は原因によって、いくつかの種類がありますが、代表的なものは

- アルツハイマー型認知症 ● 脳血管性認知症 ● レビー小体型認知症 ● 前頭側頭型認知症
- の4つで、そのうち最も多いのはアルツハイマー型認知症です。

また、認知症は、高齢者特有の病気と思われがちですが、働き盛りの年代でも認知症になることがあります。それが「若年性認知症」と呼ばれるもので、18～64歳という比較的若い年代にみられる認知症の総称です。詳しくは、「福岡市認知症ハンドブック」をご覧ください。



福岡市認知症
ハンドブック

コラム Column

福岡市認知症フレンドリーセンター

福岡市認知症フレンドリーセンターでは、認知症に関する相談や様々な情報発信を行っています。センターには、「若年性認知症支援コーディネーター」が配置されています。

問い合わせ先

福岡市認知症フレンドリーセンター

福岡市中央区舞鶴2丁目5-1 あいれふ 2階 TEL.092-791-9115



福岡市認知症
フレンドリー
センター

Ⅱ. 認知症の人への対応の心得

認知症の人への対応は **驚かせない** **急がせない** **自尊心を傷つけない** が基本です。

参考：出典「認知症サポーター養成講座標準教材」



相手から見えるところで 声をかける(後ろから声をかけない)

高齢になると視野が狭くなりますが、認知症になるとより狭くなります。認知症の人の視野は、右のイラストのように、左右の手で筒状の輪を作って目に当てた状態だと言われています。相手の視野に入ったところで、まずはあいさつをして、声をかけましょう。

★認知症の人の見え方を
体験してみましょう。



話をするときはまずは1人で

知らない人に大人数で取り囲まれると誰でも不安や恐怖を感じます。また、複数人で話かけると混乱してしまう場合があるので、話をする時はまずはどなたか1人が話すようにしましょう。

複数人でお話を聞く場合、同席する職員の方にも「安心安全な雰囲気づくり」のため「穏やかな表情で傾聴すること」に協力してもらいましょう。



相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

相手の立場に立ち、共感しながら理解しようとしたり、否定せずに話を聞くことが大切です。「私の話を聞いてくれる人」という印象は「安心」や「安全」という気持ちにつながり、混乱や興奮が落ち着くこともあります。



Point

目の高さを合わせ、優しい口調で

目の高さを合わせ、優しい口調を心がけます。一生懸命なあまり強い口調になると「怖い」などの嫌悪感を与え、そのあとのコミュニケーションがとりづらくなります。



Point

低めの声ではっきりした話し方で

高齢になると耳が聞こえにくくなる人もいます。特に高音域が聞き取りにくくなります。少し低めの声で、一言一言ははっきりと話しましょう。



Point

自然な笑顔で対応する

落ち着いて、自然な笑顔で接しましょう。こちらがイライラすると、その焦りや動揺が相手にも伝わり、混乱させてしまうことがあります。



認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」

認知症の人とのコミュニケーションの考え方と技術については、「ユマニチュード®」講座で学ぶことができます。

詳しくはこちら→



認知症当事者の気持ち



福岡市認知症
オレンジちゃんねる



認知症のご本人への
インタビュー※

- 物忘れがあることで不安な思いがあります。
 - ・自分に自信がもてない
 - ・失敗をとがめられたくない
 - ・自分が認知症だと気づかれたくない
 - ・周りに迷惑をかけたくない
- 相手がどんな思いで対応されているか敏感に感じています。

※出典: 令和2年度老人保健健康増進等事業 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインの普及や活用実態および事前の意思表示のあり方に関する調査研究事業

認知症の症状と対応の心得(例)

	認知症の症状	心がけること
中核症状	①記憶力の低下 ○新しいことが覚えられない、少し前にしたことをすっかり忘れる ●買ったことを忘れて毎日同じものを買う ●言われたことをすぐに忘れてしまい、何度も聞く	●問い詰めない、もの忘れを指摘しない ●本人の言葉を否定せずに受け止める
	②見当識の低下 ○現在の年月日や今いる場所、季節、人との関係などを把握できなくなる ●今が何月何日かわからなくなる ●予定時間や約束時間の感覚がつかめない ●慣れている場所で迷子になる	●笑顔でやさしく声かけをする 「いかがされましたか」 「お手伝いしましょうか」 「少し休みませんか」など
	③理解・判断力の低下 ○考える・判断することが苦手になる ●返事に時間がかかる ●二つ以上のことを同時に言われても頭に入りにくい ●自動販売機や交通機関の自動改札、金融機関等のATM、スーパーのセルフレジの操作がわからなくなる	●急かさない ●二つ以上のことを伝える時は、一つずつ内容を区切って話す ●念を押すように長々と説明しない ●やさしく手助けをする 「いかがされましたか？お手伝いしましょうか」など
	④実行機能の低下 ○計画を立てたり、段取りを立てたりすることが苦手になる ●段取りがスムーズにできない ●簡単な計算や小銭の支払いができない	●やさしく声をかける「お手伝いしましょうか」など ●次に何をしたらいいか、一つ一つの動作を細かく説明する
行動・心理症状(BPSD)	○不安・焦燥感 ●自信を失い、面倒になる ●意欲や気力が減退したように見える	●恥をかかせたり、自信を失わせるような対応をしない ●やさしく手助けをする
	○興奮・暴力 ●話をしている最中に突然怒り出す	●「何か失礼をしたようですが…」など、ゆっくり穏やかに対応する ●対応する人を代える ※専門家への相談が必要となる場合もあります

参考：出典『認知症バリアフリー社会実現のための手引き』

対応にお困りの場合は、ご本人のお住まいの地域の「いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）」にお気軽にご相談ください。詳細は、13ページをご参照ください。

Ⅲ. 認知症の症状の具体例と対応

何度も通帳やキャッシュカードをなくしたと来店される

こんなことはありませんか？

・通帳やキャッシュカードをなくしたと、頻回に来店される



なぜこのような行動がみられるのか

- 認知症の典型的な症状である記憶力低下により、しまった場所や、しまった事を忘れてしまいます。大事な通帳をなくしたことで、混乱されていると考えられます。



対応のポイント

- 「またなくされましたか」「昨日も来られましたよね」などの言葉は、不安や混乱を増幅させたり、侮辱されたと感じ攻撃的になれるかもしれません。
- 本人の話を否定せず、傾聴しましょう。話をするうちに、本人が納得して帰られる場合もあります。
- 通帳などを何度も紛失するのは、認知症の初期に見られる症状です。金銭管理が難しくなっているサインでもあります。早期受診、早期対応が必要な時期でもあるため、本人の同意を得て、家族、またはいきいきセンターふくおか連絡し、情報共有することを検討してください。



豆知識

金銭管理が難しい状態であれば、成年後見制度を利用する方法も考えられます。成年後見制度は、認知症、知的障がい、精神障がいなどで判断能力が十分ではない人のために、本人の権利を守る人（成年後見人等）を選ぶことで、法律的に本人を支える制度です。福岡市では、「福岡市成年後見推進センター」を設置しています。連絡先は、14ページをご参照ください。



福岡市成年後見
推進センター

「現金を受け取っていない」・「お金がなくなった」と言われる

こんなことはありませんか？

- ・現金を払い出した後、「受け取っていない」と再度来店された
- ・「通帳からお金が勝手に引き落とされている」「誰かがお金を盗んだ」と言われる



なぜこのような行動がみられるのか

- 記憶障害のため、金融機関に行ったことも、現金を受け取ったことも忘れてしまいます。かなり前の記憶が、直近の記憶であると誤って認識している場合もあります。
- 「あるはずの現金がない」という事だけが認識されていますので、不安になったり、「誰かが盗んだ」と思い、怒りにつながっていることがあります。



対応のポイント

- 直接対応する人は基本的には1人とし、できればなじみの職員を決めて対応しましょう。向かい合わせではなく斜め前の位置で話を聞くと、本人の緊張がほぐれやすいでしょう。
 - 事実確認をする際は、ご本人の自尊心を傷つけない配慮が大切です。
- ①考えるスピードが遅くなっているため、ゆっくりと急かさないようにしましょう。
- ②理解力も低下しているため、二つ以上の話をするときは、一つずつ内容を区切って話をしましょう。
- 【例えば】「通帳を見ながら、いっしょに確認しましょう。」を
- ①「通帳を見せてくださいね。」
- ②「いっしょに確認しましょう。」



アドバイス

- 詐欺被害の可能性が考えられる場合は、警察に連絡してください。
- 家族が盗んだと言われる場合は、経済的虐待かもしれません。高齢者に対する様々な虐待に関しては、通報の義務がありますので、いきいきセンターふくおかにご相談ください。

同じ内容の話を繰り返しされる

こんなことはありませんか？

- ・数分の間に同じ質問を何度もされる
- ・お金に関する話以外で、身の上話などを繰り返し話され、次のお客様を待たせてしまっている



なぜこのような行動がみられるのか

- 記憶障害により、今した話をすぐに忘れてしまい、繰り返し話し続けてしまいます。
ご本人にとって大事な用件であればあるほど、心配のあまり、繰り返し話をされる場合があります。
- 視野の狭さから周りが見えてなかったり、話に夢中になり、周囲の状況を正しくとらえられない場合があります。



対応のポイント

- 相手の話は否定せずに、そのまま受け止めながら対応しましょう。
- 話が長くなり、他のお客様や業務に支障が出てしまう恐れがある場合は、相手の尊厳を傷つけないように丁寧な対応で事実をお伝えください。



豆知識

「認知症オレンジちゃんねる」は、認知症の本人や家族、地域住民や企業が、認知症に関する必要な情報を探しやすいよう整理されたホームページです。福岡市認知症ライフサポートワーカーをはじめとする支援者が中心となって作成しています。相談窓口、制度の紹介、望ましい対応の動画などが掲載されています。



福岡市認知症
オレンジちゃんねる

急に怒り出した(興奮した)

こんなことはありませんか？

・通常通りの接客をしていたのに、人が変わったように急に怒り出された

1 説得しようせず、おだやかに対応しましょう。



2 怒りが落ち着くように、場所を移動して対応しましょう。



3 可能であれば対応する人を交代してみましょう。



なぜこのような行動がみられるのか

- 度重なる物忘れによる焦りや不安、言葉は聞こえていても意味が理解できず「何を言われているのかわからない」とイライラし、感情が不安定になることもあります。
- 感情をコントロールする前頭葉の病変により、攻撃的になりやすくなるタイプの認知症もあります。



対応のポイント

- 説得しようとしたり、理解してもらおうとすると、焦りや不安をあおってしまうことにつながります。
- 他のお客様から少し離れたところに案内し、話を聞きましょう。場所が変わったり、対応する人が変わったりすると、不安が和らぐこともあります。
- 相手の怒りの感情に引き込まれないように、落ち着いて対応し、本人の困っていることを傾聴し、ゆっくり穏やかに対応しましょう。
- 複数人で話を聞く場合、同席する職員の方にも「安全安心な雰囲気づくり」のため、「穏やかな表情で傾聴すること」に協力してもらいましょう。



アドバイス

- 度々来店される方などについては、上手くいった接客や上手くいかなかった接客を職員間で共有しておくといいでしょう。
- 急に興奮されるような症状は、専門医の受診が早急に必要場合がありますので、本人の同意を得て、ご家族やケアマネジャーなどの支援者、あるいはいきいきセンターふくおかへ連絡することも必要です。
- 興奮して杖を振り回す、暴力を振るうなど、従業員や他のお客様に被害が生じる可能性がある場合は、ためらわずに警察へ連絡しましょう。

店内に長時間滞在している(1日に何度も来店する)

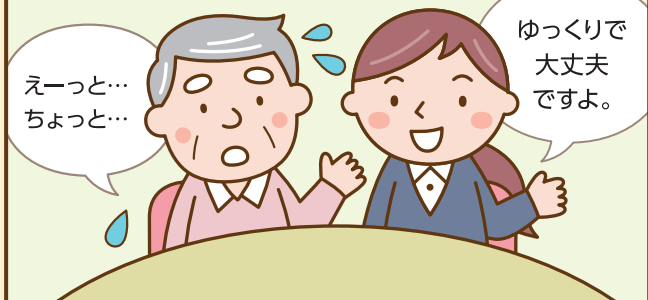
こんなことはありませんか？

- ・手続きをする様子がないまま長時間店舗内にいる
- ・不安そうにキョロキョロと周囲を確認している

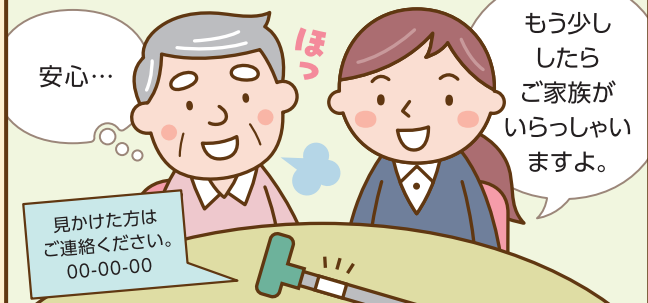
1 困っていることがないか笑顔で声をかけましょう。



2 混乱している状態であれば、椅子などに座ってゆっくりと話を聞きましょう。



3 帰り道が分からなくなっているようであれば、ご家族や警察に連絡しましょう。



なぜこのような行動がみられるのか

- 認知症の記憶障害では直前のことが思い出せないことがあるため、何のために金融機関に来たのか忘れているのかもしれない。
- 帰り道が分からなくなっている場合もあります。



対応のポイント

- 長時間滞在の理由も様々だと思いますので、まずは様子を見て、困っているようであれば声をかけましょう。
- 帰り道が分からず困っておられるようであれば、連絡先を確認し、ご家族に連絡しましょう。持ち物などに名前や住所などが記載されている物があるかもしれませんので、本人に了承をもらい確認しましょう。
- 本人からの聞き取りや持ち物などから連絡先も分からない場合は、警察へ相談してみましょう。



豆知識

認知症の人の見守りネットワーク事業

認知症の人が道に迷って帰れなくなった時に、早く発見し保護するために利用できる仕組みです。詳しくは右の二次元コードからご覧ください。



認知症の人の
見守りネットワーク
事業

緊急時連絡カード

各区社協事務所では、「緊急時連絡カード」を配付しています。このカード

は、外出先での事故や急病などで本人が連絡先等を伝えることができない時に役立ちます。

★緊急時★ 連絡カード	
ふりがな	
カード所有者	
住所	
電話番号	

福岡市社会福祉協議会

IV. いきいきセンターふくおかとの連携の好事例

事例1

金融機関からの情報提供で、医療と介護のサービスにつながり、落ち着いた日常生活を取り戻したケース



ケース概要

- 本人の同意を得たうえで、金融機関からいきいきセンターふくおか（※1）に「何度も通帳の再発行に来店している方がいる。」と情報提供があった。
- いきいきセンターふくおか職員と民生委員（※2）で本人の自宅を訪問すると、妻が「夫の物忘れが激しくなって、悩んでいた」と話された。
- そこで、いきいきセンターふくおかは認知症専門医の受診を勧め、介護保険サービスの利用に必要な手続きをお手伝いした。その結果、本人は適切な診断を受けることができ、介護保険サービスにもつながり、日々落ち着いた生活が送れるようになった。妻も一人で悩むことがなくなり、心に余裕をもって介護が続けられるようになった。

※1 いきいきセンターふくおか（地域包括支援センター）とは

福岡市が設置した高齢者（65歳以上の方）のための総合相談窓口です。詳細は、13ページをご参照ください。

※2 民生委員とは

民生委員は、地域にお住まいの方からの社会福祉にかかわる相談に応じ、相談先へつなぐ無償のボランティアの方々です。

民生委員には、法に基づく「守秘義務」があります。

事例2

金融機関と情報共有することで頻回に来店される高齢者の行動が変化したケース

1 通帳の再発行を繰り返している方が来店しています。本人の承諾を得たので今からこちらに来ていただけないか。

今から伺います。
(すぐに駆けつけられない場合があります。)

2 いきいきセンターふくおか職員が金融機関に行き、本人と面談。

どのようなことにお困りですか？

私のことを警戒されているみたい。

何も困っていない！

3 何度も自宅を訪問するがなかなか受け入れてもらえない。金融機関への来店を繰り返している。

こんにちは。今日も暑いですね。

また来たの？

まず、顔なじみになってもらって信頼してもらおう。

今日も来店されました。

今の状況は…

4 本人が穏やかに暮らせるために個別支援会議を開催。

ご本人に信頼していただけるように定期的にご自宅を訪問しデイサービスにも誘ってみます。

ケアマネジャー

いきいきセンターふくおか職員

来店時は娘さんが通帳を管理していると伝えます。

家族

私が金銭管理します。

金融機関職員

この頃、娘がよく連絡をくれてうれしい。

本人

デイサービスで友人に会えて楽しい。

ケース概要

- 金融機関職員は、何度も通帳を紛失する高齢者にいきいきセンターふくおかを紹介した。いきいきセンターふくおかは支援を開始したが、本人になかなか受け入れてもらえなかった。
- そこで、個別支援会議(※3)を開催し、本人が安心して生活できる方法を話し合った。家族が金銭管理をすることを本人に理解していただけるように関係者全員が言動を統一することなどを取り決めた。結果、本人は徐々に金融機関に行かなくなり、介護サービスも受け入れ、穏やかな生活が送れるようになった。



ポイント

- 気になる高齢者には、本人の同意を得て、金融機関からいきいきセンターふくおかをご紹介いただくと支援が開始しやすくなります。
- いきいきセンターふくおかは、本人のご自宅だけでなく、金融機関にも出向いてご本人と面談することもできます。すぐに対応できないこともありますが、本人の状況に応じて、支援方法を検討します。
- 本人の行動が変わるには時間を要します。その間、関係者で情報共有しながら、よりよい支援方法を模索していきます。

※3 個別支援会議とは

高齢者一人ひとりの困りごとへの解決策を話し合うことを通じて、高齢になっても安心して暮らし続けられる地域について、皆で考える場です。いきいきセンターふくおかが中心となり、地域の方々や介護・福祉・医療の専門職等で話し合います。

場合によっては金融機関の方々にも会議にご協力いただくことがあります。参加は任意です。

(個人情報扱うため、会議の参加者)
には守秘義務があります。

認知症に関する問い合わせ・相談

いきいきセンターふくおか(地域包括支援センター)

いきいきセンターふくおかは、65歳以上の高齢者の総合相談窓口です。市内に57センター設置されており、保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャーの資格を持つ専門スタッフが健康や福祉、介護などに関する相談を受けたり、その人の身体状況に応じたアドバイスを行います。

地域の小学校区ごとに担当のセンターが分かれていますので、どこのセンターに相談したらいいかわからない場合は、各区地域保健福祉課(裏表紙「各区保健福祉センターの窓口」欄を参照)へおたずねください。



いきいきセンターふくおかの業務

その1



高齢者に関する相談・支援をおこないます

介護や健康づくりに関する相談に応じたり、様々な制度や地域の資源を利用した支援をおこないます。

その2



安心して暮らせるよう、高齢者の権利を守ります

財産の管理に関することや虐待の早期発見や防止に向けた取り組みを通して、高齢者の権利を守ります。

その3



自立した生活ができるよう支援します

介護が必要な状態にならないよう介護予防を支援したり、自立に向けた介護サービスの利用を支援します。

その4



高齢者が暮らしやすい地域づくりに取り組みます

地域の医療機関や介護事業所、区役所や社会福祉協議会、民生委員・児童委員など、様々な関係者と連携し、暮らしやすい地域づくりに努めます。



福岡市認知症フレンドリーセンター

認知症コミュニケーション・ケア技法ユマニチュード® など認知症に関する講座やARを活用した認知症の方の視野感覚の疑似体験を実施しており、誰でも自由に訪れることができます。また、「認知症の人にもやさしいデザイン」を全面導入しており、ショールームとしてもご利用いただけます。

【開館日時】 火～土曜日(祝日・年末年始を除く) 10時～18時

【住所】 福岡市中央区舞鶴2-5-1 あいれふ2F

【TEL】 092-791-9115 【FAX】 092-791-9550



福岡市認知症
フレンドリーセンター

認知症介護相談

認知症の人とその家族などからの相談に、介護経験のある相談員が電話や面談で相談を受けています。
※認知症の介護相談は福岡県と福岡市が認知症の人と家族の会福岡県支部に委託している事業です。
なお、同支部でも独自に相談を受けています。

事業名	連絡先	開設している曜日							受付時間
		月	火	水	木	金	土	日	
① 福岡市認知症介護相談	TEL 0120-851-641				○			第2	13時～16時
	FAX 092-771-8595								
② 福岡県認知症介護相談	TEL 092-574-0190			◎			◎		11時～16時
	FAX 092-574-0190								
③ 認知症の人と家族の会 福岡県支部電話相談	TEL 092-771-8595		☆			○			10時30分～ 15時30分
	FAX 092-771-8595								

○…祝日・年末年始は休み 第2…第2日曜日のみ

◎…祝日も実施(ただし、クローバープラザの休館日は除く) ☆…第3火曜日は休み

※開催場所は、①と③がいずれも福岡市市民福祉プラザ(福岡市中央区荒戸3-3-39)で、②はクローバープラザ相談室(福岡県春日市原町3-1-7 4F)です。

福岡市成年後見推進センター

認知症や知的障がい、精神障がい等で判断能力が不十分な方が安心して暮らすことができるように、成年後見制度に関する相談を受けています。

【受付時間】 火～土曜日 9時～17時(祝休日・年末年始を除く)

【住所】 福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ 3F

【TEL】 092-753-6450 【FAX】 092-734-2010



福岡市成年後見
推進センター

各区保健福祉センターの窓口

地域保健福祉課

認知症をはじめ、高齢者の生活を支援するための相談、介護予防や健康づくり、地域の社会資源についての紹介を行っています。

福祉・介護保険課

高齢者の福祉、障がい者の福祉、介護保険に関する事務を行っています。

区	窓 口	所在地	TEL	FAX
東 区	地域保健福祉課	東区箱崎2-54-27	645-1087	631-2295
	福祉・介護保険課	東区箱崎2-54-1	645-1071	631-2191
博多区	地域保健福祉課	博多区博多駅前2-8-1	419-1099	402-1169
	福祉・介護保険課		419-1078	441-1455
中央区	地域保健福祉課	中央区舞鶴2-5-1あいれふ内	718-1110	734-1690
	福祉・介護保険課	中央区大名2-5-31	718-1145	771-4955
南 区	地域保健福祉課	南区塩原3-25-3	559-5132	559-5135
	福祉・介護保険課		559-5127	512-8811
城南区	地域保健福祉課	城南区鳥飼6-1-1	833-4112	822-2133
	福祉・介護保険課		833-4170	822-2133
早良区	地域保健福祉課	早良区百道2-1-1	833-4362	833-4349
	福祉・介護保険課		833-4352	846-8428
西 区	地域保健福祉課	西区内浜1-4-7	895-7078	891-9894
	福祉・介護保険課	西区内浜1-4-1	895-7063	881-5874

このパンフレットは、株式会社福岡銀行、株式会社西日本シティ銀行、日本郵便株式会社、公益社団法人認知症のひと家族の会、地域や認知症に関わる専門職の皆様のご助言とご協力のもとに作成しました。ここに深く感謝いたします。

編集：「中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業」ネットワーク会議（事務局：福岡市中央区地域保健福祉課）

発行：福岡市福祉局ユマニチュード推進部認知症支援課

〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL 092-711-4891 FAX 092-733-5587

（令和7年7月発行）